

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104117		
法人名	社会福祉法人 豊友会		
事業所名	グループホーム喜楽園		
所在地	山口県下関市豊田町大字中村819番地		
自己評価作成日	平成29年3月25日	評価結果市町受理日	平成29年8月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成29年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度より始めたOKIRAKUサポーター制度は、わずか二年程で、170名登録して頂いています。年齢制限なく多数の地域の方やご家族にサポーターになって頂き、共助の精神による新たな支え合いを展開しています。このことにより、地域の方がより気軽に施設に立ち寄れるようになり、在宅高齢者の安否確認にもつながっています。毎月行っているサロンコンサートやOKIRAKU喫茶も五年目となり、入居者様と地域の方々やご家族様との場として定着してきました。OKIRAKU喫茶では、自分の食べたいものを選び自分で支払いすることで自立支援を、地域の方と触れ合うことで地域の中で地域住民として暮らしていることを大切にしています。行事活動を積極的に行うことにおいて、楽しんで充実した生活を送って頂けるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、法人施設で開催している月1回のサロンコンサートに出かけられて、家族や地域の人と一緒に楽器演奏やフラメンコなどを鑑賞されたり、月1回開催されているOKIRAKU喫茶では、家族や地域のひと好みの物を注文され、料金を支払って飲食を楽しまれている他、法人のサポーター制度のボランティアの協力を得られて、事業所の行事の準備や植木を植えたり、利用者と一緒に畑づくりをしておられるなど、利用者が地域の一員として日常的に地域とつながりながら暮らしていけるように支援に取り組まれています。職員は、日々の関わりのなかで利用者に寄り添われて、利用者の思いや意向の把握に努められます。利用者が行きたいと思っている場所に年1回は出かけられるように個別の外出支援に取り組んでおられ、初詣や出展した書初めを見学に行かれたり、水族館に行きたいという利用者の希望から、全利用者と一緒に水族館に出かけておられるなど、本人の希望を把握されて、家族の協力を得ながら戸外に出かけられるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と基本方針をホームに掲示している。名刺サイズに印刷したものを名刺に入れ携帯し、常に方針に即した介護が出来ているか自己評価できるようにしている。朝礼で唱和し、意識の徹底に努めている。グループホーム独自に「しっかり見つめ、理解できるように話しかけるも目標に掲げ支援している。	理念と基本方針を事業所内に掲示している。ミーティング時や月1回のカンファレンス時などで、利用者に寄り添い、利用者の思いを大切にしていこうということを職員間で話し合い、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月一回開催している、サロンコンサートやOKIRAKU喫茶は五年目を迎え、さらに地域の方やご家族の方に定着してきた。OKIRAKUサポーター制度を取り入れ、小・中・高と祭りの準備やサロンコンサートの手伝い、ソーメン流しの竹作り、畑作りや植木を植えたりなども行っている。近隣の小・中学校の学習発表会に参加したり、劇や歌の披露にも来て頂いている。	利用者は、隣接の法人施設での月1回のサロンコンサート(楽器演奏やフラメンコなど)に参加している他、月1回のOKIRAKU喫茶開催日には家族や地域の人達と一緒に好みの物を注文し、料金を支払って飲食を楽しんでいる。事業所の行事(そうめん流し、植木の移植など)に、法人のサポーター制度のボランティアの協力を得ている。法人の祭りに利用者は参加して地域の人達や子ども達と交流している。地域の敬老会に利用者は参加をしている。小中学生の職場体験の受け入れをしている。神社の祭りに出かけている他、文化産業祭や道の駅に利用者の習字などの作品を出展し、見学に出かけ地域の人達と交流している。地域の人達から野菜や果物などの差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロンコンサートに来て頂いた時など、福祉の豆知識として、認知症について等話をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価は、運営者・管理者・職員ともに園の実践状況を客観的に把握できる機会ととらえ、日常のケアの業務のあり方を再認識している。 外部評価結果や改善策もミーティングで検討し、改善に向けた取り組みをしている。	リーダーを中心に自己評価をするための書類に基づいて職員と話し合い、まとめている。前回の評価結果を受けて目標達成計画を作成し、運営推進会議への地域メンバーの拡大や緊急時の初期対応や応急手当の訓練を実施しているなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・全職員による自己評価の取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催し、日々の活動写真を取り入れた資料を作成し、取り組み内容を報告している。また、インシデント・アクシデントの提出状況や対策なども話し合いをしている。 また、近隣のグループホームの運営推進会議に参加させてもらい、地域の要望やインシデント・アクシデントなど意見交換している。	法人の特別養護老人ホームと合同で、会議を2ヶ月に1回開催している。利用者の状況、活動内容、事故報告、食事について、災害時の対応、外部評価結果などについて報告し、話し合いをしている。災害時の避難場所として法人施設が挙げられていることから、事業所としても避難場所を法人施設にしてはとの提案があり、整備に向けて取り組むなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスに関する内容や介護保険制度等、市担当者と連携を図るようにしている。 サロンコンサート行事のパンフレット等を毎回担当者に渡し、今後さらに協力体制を築きサービス向上に努めていきたい。	市担当者とは、運営推進会議の他、出向いて相談や情報交換をしたり、電話やFAXなどで相談して助言を得たり、情報交換を職員とは、運営推進会議時に利用者状況等について情報交換や相談をしている他、地域ケア会議や電話などでも情報交換をして連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修や月一回のミーティングなどで施錠しないケアの大切さや、スピーチロック、身体拘束についての話し合いを行っている。 スピーチロックについては、勉強会や日々の業務で職員同士意識し合っている。	法人の身体拘束の研修に参加している他、内部研修でスピーチロックについて学び、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をしないで、外出したい利用者とは一緒に出かけたり、気分転換の工夫をするなどの支援をしている。スピーチロックに気づいた時には、管理者やリーダーが指導をしている他、職員間で話し合いをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修やミーティングでも話し合い、意見交換し、虐待防止についての理解を深めている。 対応の仕方や言葉使いなど職員間で注意し合える環境作りに取り組んでいる。 職員同士が意見交換することで、ストレスも減り、虐待の起こらない環境作りに努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H28年12月より該当される方が入居されている。その為、入居前に権利擁護に関する資料を職員に配布した。 また、関係機関である、社会福祉協議会と連携を取、対応している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書などを基に丁寧に説明を行い、同意書に署名・捺印を頂くようにしている。 いつでも、気軽に不安なことや疑問を聞けるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム苦情申し立て窓口を置き、また、第三者委員会などで説明をして、いつでも気軽に苦情など申し出て頂ける環境を作っている。 また、『苦情箱』ではなく、『意見箱』を設置している。	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、苦情処理手続きについて家族に説明している。面会時、運営推進会議時、事業所だより送付時、行事参加時(クリスマス会など)、電話などで家族の意見や要望を聞く機会を設けている。ケアに対しての要望はその都度対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一回面談を行い、意見を聞く機会を設けている。変化する入居者様、家族の要望など、その都度、関わっている職員と話し合いをしている。代表者とも年二回職員と食事をしながら話をする機会を設けている。	管理者やリーダーは、月1回のミーティング時や朝礼時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞くようにしている。代表者は年2回、食事をしながら話を聞く機会を設けている他、管理者は6ヶ月に1回、個人面談の機会を設けている。職員の勤務体制の変更や利用者全員での外出支援についての提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談などの機会を持ち、その時の意見や提案を参考にし、向上心を持って働ける職場関係の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関しては、勤務調整をして受講しやすい環境を作っている。研修に関しては、情報はすべて回覧し職員に伝え、希望者は出来る限り研修受講してもらっている。法人全体で必要時にはいつでも、経験年数の長い職員が個別の指導を行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階に応じ勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は報告をし、職員間で共有している。資料は閲覧できるようにしている。今年度はグループホームのあり方やグループホームブロック研修会などに3回参加している。月1回の法人研修では感染症、インフルエンザ対策等を実施している。内部研修は、年間計画にそって、応急処置、事故防止、脱水、感染症等の訓練を実施している。新人研修は、外部研修、法人研修を受講後、リーダーの指導の下、働きながら学べるように支援している。資格取得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会などの研修に参加し、同業者との交流の機会を設けている。近隣のグループホームの運営推進会議に出席し、情報交換をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人の話をしっかり聞くことを心掛け、入居者への大きな環境変化を最小限に抑え、生活に早く馴染めるように努めている。 不安のある利用者には、出来る限り個別にゆっくり話を聞いたり対応したり、日々しっかり観察し、困っていることを把握するように努め、安心して頂けるよう図っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との話し合いを持ち、施設の方針等を理解して頂き、困っていること、不安なこと、要望などを聞きながら、ケアプランに反映することにより相互の信頼関係を築くように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族の要望をしっかりと受け止め、見極めることは難しいが一つひとつ確認しながら、話を進めている。言葉のすれ違いが無いよう、細かい所まで話し合う努力をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来ることは一緒に行い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、おやつ作り、職員が教えて頂いたり、意見を言い合ったりなど、支え合いの関係を築き、信頼関係が生まれてきている。 昼食と夕食は、職員と一緒に食事をしながら会話も楽しんでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際に、ご家族に本人の様子をしっかりと伝えるよう職員同士申し送りを細目に行っている。 前年同様クリスマス忘年会を行い、入居者様、ご家族様、職員と一緒に過ごし、絆を大切にしている。 毎月、喜楽園便りとともに、家族に担当職員が本人の最近の生活の様子を伝えた手紙を送っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は出来る限り制限せず、本人と家族や知人との外出の機会を多く作り、入居前からの習慣の継続や社会との繋がりを大切にしている。 面会に来られた方や、ご家族にお礼の手紙を書いて関係が途切れないようにしている。	家族の面会、親戚の人や孫、ひ孫、甥、近所の人、友人、昔の職場の同僚の来訪がある他、年賀状や暑中見舞い状、手紙、電話などの支援をしている。地元の敬老会の出席、出生地へのドライブ、馴染みのスーパーでの買い物や寺参りなどの支援をしている他、家族の協力を得て馴染みの美容院の利用、一時帰宅、外食、外泊、墓参り、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を考慮した外出や趣味活動を通し、お互いに協力、支え合えるよう支援し、生活にメリハリを持たせるようにしている。 食事の盛り付けなど、入居者様同士で話し合いをして決めていることも多い。 また、共同生活で座る位置も、入居者様の生活や相性等を考慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去された、ご家族に施設での行事の案内や入居者の写真のども送り、関係性を大切にするよう心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員とケアマネをはじめ、全職員で本人の意向や思いをくみ取るよう努め、そして希望や気持ちを受け止めて、支援内容に生かすよう取り組んでいる。本人の希望を中心とした暮らしが出来るよう、柔軟に対応できるよう努めている。 また、本人の意向や思いは、経過記録に細かく記入するようにしている。	入居時のアセスメントシートを活用している他、日常のかかわりの中での気づきや利用者の言動、様子などを経過記録に記録して職員間で共有に努め、思いや意向の把握をしている。困難な場合は家族から情報を得て職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際に、ご家族より、生活歴や暮らしぶりの把握に努め、居室内に装飾や生活習慣等、本人らしさを残すことを大切にしている。入居後も、できるだけ情報収集するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にアセスメントを行い、一人ひとりの一日の暮らしぶりや生活リズムを把握するよう努めている。 また、ケアプランの内容を実施し、適切に支援できているかモニタリングしていくことにも努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを基に、ご家族から意見を聞き、各職員が入居者様の現状を把握することと共に、カンファレンスを通じて問題点や改善点を話し合い、介護計画を作成している。毎月のミーティングではスタッフ等関係者が情報共有や共通理解を図ったり、事故が起こらない為に勉強会をしている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月～6ヶ月毎の見直しをしている他、利用者の状態や要望に応じてその都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきは、入居者様の言葉に対して、職員がどう答えたかなども記入し、職員間のケアの共有をしている。申し送りノートやメモ書きでも、本人の様子や要望など、全職員が情報を確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望を取り入れ、買い物、ドライブ、病院受診などニーズに柔軟に出来る限り対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を中心に、カフェ、他施設運営会議のどで地域との情報交換がさらに広がっている。 近隣スーパーへの買い物や飲食店への外食など活用し、馴染みの関係を維持し、新たな関係作りにも取り組んでいる。 昨年度より、移動図書をはじめ、気軽に本を借りる環境を作っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の希望を聞き、事業所の協力医の他、ご本人が望む医療が受けられるようにしている。内科以外では、ご家族と相談しながら、本人に適切な病院で受診できるよう配慮している。	本人や家族の希望するかかりつけ医で、他科受診を含めて家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は面会時や電話で家族に伝えている。職員間では、経過記録や健康観察記録、連絡帳に記録して共有している。夜間時や緊急時にはかかりつけ医、協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の小さな変化で気になることは併設特養の看護師に相談し、必要であれば診てもらい、早めに病院受診している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の備えとして、町内の総合病院の地域連携室との連携体制を取っている。 また、入院中に入居者様に面会したうえで、病院関係者と情報交換を行い、現状把握して、退院後のケアが効果的に出来るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては、ご本人、ご家族様が最後に何を望むか、しっかり確認し、意思統一を図りながら支援できるような体制を整えていきたい。 各医療機関とも密に連携を取れるよう、体制は整えている。	契約時に、重度化や終末期に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を聞き、主治医や看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて、共有して、取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	毎月のミーティング時に事故防止の初期対応や応急手当など勉強会をし、事故防止に取り組んでいる。併設特養での法人研修も年二回ある。 インシデントを細目に出してもらい、ご入居者様一人ひとりの事故防止にも努めている。	事例が生じた場合は、その日の職員間で話し合いインシデント、アクシデント報告書に対応策を記録して、朝の申し送り時や連絡帳で共有している。月1回のミーティング時に再検討をして一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、法人研修(感染症、AED使用訓練など)で学んでいる他、内部研修で応急処置、脱水症、事故防止について実施しているが、全職員が実戦力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアルを整備し、地域の方を交えて避難訓練を行い、消火器の使用方法や入居者様の救出方法を学び、被害発生時に備えている。	消防署の協力を得て、法人施設全体で年2回、昼夜想定火災時の通報、消火訓練や避難誘導などを自治会長や地域の人の参加を得て、利用者も一緒に実施している。緊急時連絡網に自治会長、第三者委員、評議員が加わっているなど、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念をホームに掲示している。名刺サイズに印刷し、名札に入れていつも見れるようにしている。 常に、人生の先輩として個人の人格を尊重し田接し方を心掛けている。特に、言葉掛けは、相手の気持ちをくみ取りながら、丁寧に優しく話しかけるように職員同士お互い意識して実践するよう心掛けている。	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊敬して接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いや管理に留意し、守秘義務についても職員は理解して遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位ではなく、色々な場面でご本人が選択することが出来る言葉かけを心掛けています。 その日のおかずに対して、パンかご飯かを選んでもらったり、パンに付けるジャムを選んでもらったり、飲み物を選んでもらったりと自己決定できるようにしています。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まっているが、ご入居者様に無理強いをするのではなく、その人に合ったペースで支援するように努めている。 お風呂は、一番風呂が良い方や夕方入浴されたい方など、なるべくご本人の意思を取り入れるようにしている。 『ゆっくり食事がしたい』に方は一時間以上かけ、テレビを見ながら、自分のペースで食べて頂いている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用されている方が多く、ご本人の希望に添えるよう、また、馴染みの関係が築けるようにしている。 毎朝、髪をといたり、お化粧されたり、みだしなみを整えている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、テーブル拭き、お盆、箸を並べたり等、それぞれの方が出来ることをして頂いている。盛り付けでは、ご入居者様同士や職員とも相談しながら盛り付けている。	三食とも法人からの配食を利用している。月1回の法人給食会議で利用者の要望を反映した献立を作成し、形状の工夫をしている。利用者は、テーブル拭き、盛り付け、配膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じ食卓では同じ物を食べながら、得意なことや思い出話をして、食事を楽しんでいる。月1回の調理の日には利用者と職員と一緒に献立づくり、買い物、調理を楽しんでいる。月1回のおやつづくり、週1回の移動パン屋の利用、法人のOKIRAKU喫茶での飲食や家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量が少ない方には、家族と話し合い、高カロリーゼリーやプリンなど常備しており、体調に合わせて提供している。 水分摂取量についても、身体記録に一時間おきの摂取欄を作っており、お茶以外の飲み物は何を飲まれたかも記入し、それぞれ好みの飲み物で水分摂取が充分取れるよう工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり声掛けを行い、出来る限り職員見守りの中、ご自分で磨いて頂いている。 また、磨き残しや出来ない方は、職員が口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で確認し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別の声掛けをし、出来る限りトイレでの排泄が上手くいくように努めている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況はチェック表で確認し、全職員が把握できるようにしている。 職員が状況を見ながら、水分補給を促したり、適度な運動をしたりしている。 食事には、乳製品を取り入れており、週一回のヤクルト販売も利用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては、曜日や時間を決め対応しているが、ご本人の希望があれば、随時入浴して頂いている。温泉とマイクロバブルでの入浴を楽しみにしている方も多い。	入浴は毎日、13時30分から15時30分までの間可能で、隔日には入浴できるように支援している。歌を歌ったり、懐かしい場所の話をしたり、ゆっくりと入浴できるよう支援している。マイクロバブルや温泉湯などで入浴を楽しめる工夫もしている。入浴したくない人には時間の変更や言葉かけの工夫をしている。利用者の状態に合わせて、清拭、足浴、シャワー浴の対応など、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や状態に応じて、居室のベッドで休息して頂いている。 また、安眠できるように、入居前から、習慣でされていた、ホットタオルを用意したり、馴染の毛布やクッションを持って来て頂いている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧をファイルにして、職員が飲まれている薬に対する理解に努めている。 臨時薬が出た時は、申し送りノートに記入し、職員全員に周知している。 服薬の際には、一人ひとりの名前、〇〇食後かを声にだし、呑み込むまで見届け、服薬ミスの無いように努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事を始め、日常では、洗濯干し、洗濯たたみ、玄関をはいたり、アイロンがけ、料理の盛り付け、配膳準備、畑の草取り、カラオケ、塗り絵、写経、計算プリント、間違いさがし、そろばん、トランプ、かるた、お手玉、風船バレー、卓球、グランドゴルフ、ケアビクス体操、散歩、ドライブ、買い物、移動図書などなど、一人ひとりの好みや出来ることに合わせた支援をしている。	法人の祭り、サロンコンサート、OKIRAKU喫茶、納涼花火大会、さんま祭り、季節の行事(豆まき、クリスマス、忘年会など)、誕生日会、おやつづくり、カラオケ、習字、写経、脳トレーニング、そろばん、ぬり絵、カルタ、お手玉、トランプ、グランドゴルフ、オルガン伴奏、間違い探し、迷路、卓球、ケアビクス体操、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ガラス拭き、下ごしらえ、調理、盛り付け、食器洗い、テーブル拭き、アイロンかけ、野菜の収穫、水やり、草取り、掃除など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、近隣へのドライブ等の外出は、ご本人の意向を大切にし、柔軟に対応し、四季折々の風物に触れる機会を出来るだけ作っている。 また、家族の協力を得て、ご本人の希望を聞き取り、外出・外食などに出掛けた。 今年は、入居者様、職員で話し合い、入居者様全員を連れて海響館に行くことが出来た。	周辺の散歩、初詣、四季の花見(桜、菜の花、菖蒲、コスモス、紅葉)、ホテル見物、リンゴ狩り、文化産業祭、秋祭り、お寺の御開帳、敬老会、小学校の学習発表会、海響館、自宅周辺のドライブ、スーパーマーケットでの買い物などの他、家族の協力を得ての外食、外泊、一時帰宅、馴染みの美容院の利用、墓参り、法事への参加など、戸外に出かけられるよう支援している。水族館に行きたいという利用者の思いから、全利用者の水族館行きを実現する取り組みを通して、利用者一人ひとりの年1回の個別の外出支援につなげている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いにより、居室に小遣いを置いて頂き、買い物に出掛けたり、週一回のヤクルト販売や移動販売のパン屋を利用し、ご自分で買って頂いている。 月一回のOKIRAKUカフェにも行き、ご自分で食べたいものを選び、お金を支払ってもらっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、ご家族と電話で話が出来よう支援したり、手紙、はがきなどご家族に出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、居室の温度や湿度チェックをし、快適に過ごせるようにしている。窓を開け、空気の入れ替えをしたり、湿度が低ければ、濡れたタオルを干し、湿度調整したりしている。玄関には、季節ごとにペストリーを張り替え、居間には職員と一緒に作成したものを貼っている。	共用空間はバリアフリーで、食堂、浴室、トイレ等は利用者が使いやすいように工夫している。卓球も楽しめる広い空間の壁には、パッチワークや鯉のぼり、行事の写真が飾っており、玄関には季節の花が活けてある。窓からは、行き交う車や通学の小学生の姿が見ることができる他、季節ごとの自然の風景が眺めることができる。温度や湿度、換気などに配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に本や雑誌コーナーを設け、好きな本を好きな時に読んでもらっている。ソファーや食事席等、気の合った者同士が近くに居れるよう気を配っている。ご入居者様のお気に入りの場所を把握し、出来る限り、その場所で過ごせるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた馴染の家具や寝具など、思い出のあるものを持って来て頂き、一人ひとりが安心して過ごせるような空間にしている。	テレビ、冷蔵庫、鏡台、テーブル、コタツ台、スタンド、タンス、本箱、時計、日傘、予定帳など、好みのものや使い慣れたものなどを持ち込み、ペーパーフラワー、絵、家族等の写真、自画像、折り紙の作品を飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下や浴室、トイレは手すりがあり、安全に移動できるようにしつつも、ご本人に出来るだけ、自分の力を使って頂けるよう支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 喜楽園

作成日：平成 29 年 8 月 7 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員による自己評価の取り組みが出来ていない。	全職員が自己評価の意義を理解し、日々のケアに活かす。	・緊急時初期対応や応急手当を実践を踏まえた研修。 ・全職員に自己評価の書類を配布し、記入にしてもらう。	12ヶ月
2	4	全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続。	全職員が実践力を身に付ける。	・法人研修への参加 ・実践を踏まえた研修 ・入居者一人ひとりに応じた、事故防止の研修。また、研修へ参加できなかった職員へは、書面で共有し、全職員が理解し対応できるようにする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。